

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)プレサンスロジエ四條烏丸計画

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境								3.9
1 音環境								3.4
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				開口部遮音性能T-2を確保	5.0	1.00	5.0	0.30
2 界壁遮音性能				フローリングL-45を使用	-	-	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	4.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	0.20
1.3 吸音					-	-	-	-
2 温熱環境								4.8
2.1 室温制御								
1 室温				省エネ等級4を取得予定	2.6	0.50	5.0	1.00
2 負荷変動・追従制御性					3.0	0.63	-	-
3 外皮性能					-	-	-	-
4 ゾーン別制御性					2.0	0.38	5.0	1.00
5 温度・湿度制御					-	-	-	-
6 個別制御					-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮					-	-	-	-
8 監視システム					-	-	-	-
2.2 湿度制御					1.0	0.20	-	-
2.3 空調方式					1.0	0.30	-	-
3 光・視環境								2.9
3.1 昼光利用								
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	1.8	0.30	3.0	0.50
2 方位別開口					1.0	0.60	3.0	0.50
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)	-	-	3.0	0.30
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア					3.0	0.40	3.0	0.20
2 昼光制御				●自然 B(推奨内容)	-	-	-	-
3 映り込み対策					3.0	0.30	3.0	0.50
3.3 照度					3.0	0.15	-	-
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-
4 空気環境								3.9
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を採用	2.6	0.25	4.0	1.00
2 アスベスト対策					3.0	0.60	5.0	0.63
3 ダニ・カビ等					3.0	1.00	5.0	1.00
4 レジオネラ対策					-	-	-	-
4.2 換気								
1 換気量				●自然 A(全国版準用)	2.0	0.40	2.3	0.38
2 自然換気性能					3.0	0.50	3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮					1.0	0.50	1.0	0.33
4 給気計画					-	-	-	-
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視					-	-	-	-
2 喫煙の制御					-	-	-	-
Q2 サービス性能								2.9
1 機能性								3.1
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性					2.4	0.40	3.2	1.00
2 高度情報通信設備対応					3.0	0.40	4.0	0.60
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	-	-	4.0	1.00
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				●とも C(独自加点)	1.0	0.30	2.0	0.40
2 リフレッシュスペース					-	-	3.0	0.50
3 内装計画				●とも D(独自基準)	1.0	1.00	1.0	0.50
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保				倉庫やごみ置場を確保している	3.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御					3.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性								3.0
2.1 耐震・免震								
1 耐震性					3.0	0.48	-	-
2 免震・制振性能					3.0	0.80	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.4	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				普通ポルトランドセメントJISR5210を使用	4.0	0.29	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.12	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				比較的長寿命の配管を多く採用する	3.0	0.10	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.20	-	-
					3.0	0.29	-	-

2.4 信頼性				2.6	0.19			
1	空調・換気設備			1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり						2.2	0.50	
1	階高のゆとり					3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)			1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					0.30			2.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮 快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)	2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性								3.4
LR1 エネルギー					0.40			3.8
1 建築物の熱負荷抑制				3.0	0.40			3.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)	3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				4.9	0.40			4.9
集住宅以外の評価(ERRIによる評価)				#VALUE!				
集住宅の評価				4.9				
4 効率的運用								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル					0.30			2.9
1 水資源保護				3.0	0.15			3.0
1.1 節水				3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	3.0	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			2.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤								
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮				4.3	0.33			4.3
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.25			
1 雨水排水負荷低減								
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 交通負荷抑制				3.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33			
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音				3.0	1.00			
2 振動								
3 悪臭								
3.2 風害、日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制								
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)	3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からとる